

## 令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	83	学校名	静岡県立浜松湖北高等学校 佐久間分校	記載者	佐藤 敦
------	----	-----	-----------------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>授業に真剣に取り組む態度を育成するとともに、「分かる・学力が付く授業」を実践する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業が分かる率」95%以上</li> <li>・「学力が付いた率」95%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数教育のメリットが成果に出ているのではないか</li> <li>・生徒・保護者による学習についての評価は、他校と比べて非常に高いと感じる。</li> <li>・効率的な一人一台の端末使用による分かる授業での高い学力目標達成率は評価に値する。</li> </ul>
	丁寧で手厚い教育の成果がより反映される体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価に関する職員研修2回以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法についての研修が目標値以上に実施された努力は評価に値する。</li> </ul>
	図書室と進路指導との連携を深め、情報収集や探究のための閲覧・読書を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科や進路に関する図書室利用年3回以上</li> <li>・図書貸出数 100冊以上</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者ともに低評価が多い項目となっている。何か積極的な活用促進策が必要と感じる。</li> <li>・無理せず図書に触れることが重要なので、日常的に図書室を活用する（図書室で授業するだけでもよい）仕組みを検討してはどうか。</li> </ul>
イ	授業や総合的な探究の時間で生徒の発信力を高める活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での発表活動 学期2回以上</li> <li>・総合的な探究の時間での発表会 年2回以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による出前授業や生徒によるWEB資料の作成等非常に生徒の発信力を向上させていると思う。</li> </ul>

ウ	<p><b>高い志の育成に努め、生徒の進路希望の実現を図る。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路対策に満足していると答える生徒 80%</li> <li>・就職内定率 100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かい進路対策が生徒・保護者の満足につながっていると思う。</li> <li>・進路対策満足度、就職内定率ともに目標をクリアしていることは評価に値する。</li> <li>・生徒は進路に対する知識や関心の幅が限られている（あくまで社会人に比べて）。今の満足度の重要性は疑問。難しいと思うが、卒業後の継続的な調査や、数年後の定点調査ができないか。</li> <li>・就職先もより多様化を目指してほしい。</li> </ul>
エ	<p><b>学校設定教科「地域」を充実させ、地元大学との連携や地域との関わりを深める。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元大学との連携活動 年3回以上</li> <li>・地域人材の活用 年3回かつ10人以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記「イ」の内容と同様非常に積極的な取り組みを行っていると思う。</li> <li>・地域人材等の活用および発表会ともに素晴らしい成果を上げたことは評価に値する。関わりを深めることはできていた。地域人材も授業の全体像を理解しながら、目的意識を共有して進められると、よりよい。</li> </ul>
オ	<p><b>節度ある生活態度の実践を図り、行事・部活動やボランティア活動の充実を図る。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が有意義と答える生徒 80%</li> <li>・行事・部活動やボランティア活動に積極的な取り組みを行った生徒の割合 85%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも成果目標をクリアできたことは評価に値する。少人数教育のメリットが成果に出ているのではないか</li> <li>・「ボランティアへの積極的な取り組み」の項目について、C評価が生徒8人、保護者は2人の回答でこの差が少し気になる。</li> </ul>
カ	<p>個に応じた指導の在り方を確立する。 悩みや問題を抱えた生徒、いじめ等への早期対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接 学期1回以上実施</li> <li>・いじめ等に関するアンケート 年4回実施</li> <li>・ケース会議 学期1回実施</li> <li>・カウンセラーとの面談1人1回以上</li> <li>・多様性に係る授業・講座年1回以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒へのきめ細かい対応ができていると思う。個別指導において、しっかりと対応が窺える。</li> </ul>

様式第5号

キ	中高の行事交流等を充実させ、中高の一体感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一教科の中学校教員との意見交換年6回以上。</li> <li>・事後アンケートにより、「よかった」と答える中高生90%以上。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭を拝見し、一体感を感じた。</li> <li>・体育祭や授業交流等中高の一体感が非常に高いと感じた。</li> </ul>
ク	I C T等を活用した授業や会議等を行うことにより、教育の質を維持し、効率的な学校運営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C Tを活用した授業ができる教員の割合90%以上</li> <li>・遠隔授業の機器操作全教員いずれか年2回以上</li> <li>・授業に工夫していると答える生徒70%</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度で抽出した改善点を次年度に生かしていただきたい。</li> <li>・この分野は今後ますます重要となる可能性が高いのでさらに充実させてほしい</li> </ul>
ケ	安全安心な校内環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間に1度の定期的な点検</li> <li>・職員への聞き取り 学期1回</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「B」評価とされている具体的な理由があれば伺いたい。</li> <li>・生徒の安全確保は大切なので、今後もしっかり対応してほしい。</li> </ul>
コ	保護者・地域等との関わりを深め、広報の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・インスタグラムの更新 週2回以上</li> <li>・「佐高だより」の発行・回覧 年3回</li> <li>・地域行事に関わった生徒70%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わり、情報発信広報は大切なので今後もさらに充実を図ってほしい。</li> <li>・地域行事で生徒をよく見かけ、地域の担い手になってくれていると感じている。</li> <li>・ホームページの内容や新聞等での情報発信等効果的な広報ができていると感じる。</li> </ul>
サ	時間の活用を工夫する。業務負担の平均化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日(スーパー定時退勤日含む)を月1回計12回以上設定し、90%以上の教員が実施する。</li> <li>・スーパー定時退勤日を学期に1回設定し、100%実施する。</li> <li>・時間外勤務 年360時間以内6人以上 (R3 4人)</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退勤時間には表れない教員の潜在的な負担や働きがいについても学校として継続的に取り組んでほしい。</li> <li>・休暇の取得しやすさ等説明で伺えたので、今後更に発展的に継続していただきたい。</li> </ul>